南紀生物 39(1):28, 1997

短 報

和歌山県白浜町で事故死したクロツグミ

久保田　　信*

はじめに

小鳥が建物に衝突・落下するのを目撃した著者の経験は、エコローケーションをするコシジロウミツバメ *Oceanodroma leucorhoa* が，北海道厚岸町で夏期に起こした数例のみであった。今回，和歌山県白浜町で，一羽のクロツグミの衝突死に遭遇した。近畿地方での小鳥の事故に関する最近の報告例としては，大阪府の長居公園での12年間にわたる22種46個体についての記録がある（和田, 1995)。鳥の事故死の状況記録が少ないことと，金田（1982）による白浜の鳥類相リスト中にクロツグミがみあたらないので報告する。

小鳥の衝突死の記録

鳥の種と性	クロツグミ *Turdus cardis* TEMMINCK の雄（図1）
鳥のサイズ	嘴峰 16 mm; 翼長 112 mm
事故発生場所	京都大学瀬戸臨海実験所研究棟2階教官室2の入り口直前の窓（和歌山県西牟婁郡白浜町臨海）
事故日・時刻	1996年11月1日・午後1時45分
雲量・気温	10・24.8度C
事故状況	北向きの窓ガラス（ガラス一枚のサイズは，縦 103 cm, 横 100 cm で，当該窓に二枚はまるが，重ねていた）に大きな衝突音をたて，約 5.5 m 下の地面に落下。痙攣していたが，どこからも血などを吐出せず。落下後，数分以内に目を開いたまま死亡。
参考事項	風のない穏やかな日で，実験所研究棟の廊下に足跡がつくほどの高湿度。
事故原因	窓ガラスに写った景色を見て，そのまま勢いよく突入。捕食者に追われた形跡なし（ネコ・猛禽類などは近くにみられず)。後述するダニ類の多数個体の寄生による何らかの影響。

クロツグミはわが国へは夏鳥として渡来し，近畿地方では巣をかけるものの数は多くはない（小林，1967, 1973）ので，金田（1982）による白浜でみかける鳥類リストにはのっていない。今回，衝突死した個体は，嘴は

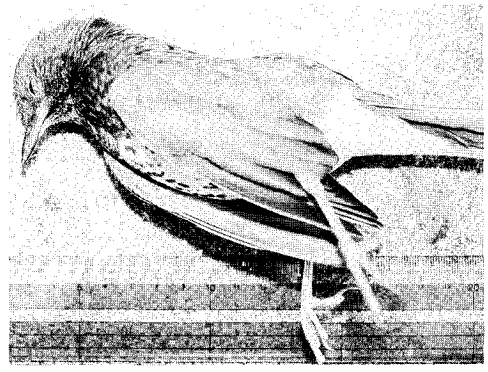

図1　事故死したクロツグミの雄

黄色ではなく多少黒ずんでおり，サイズも小さめである（小林，1956；岡田・内田・内田，1973参照）ことから，まだ成鳥になっていない可能性が強い。和田（1995）によると，大阪府，長居公園内の自然史博物館の窓ガラスに衝突する鳥は，数的には幼鳥が多く，秋の渡りのピーク時に事故の発生もピークに達している。和田（1995）のまとめた事故リストに本種の記録はないが，本事例は，大阪府で起こりがちな事故と合致している。

ところで，本個体が死亡して1時間後，体表面にダニ類が多数出現し始めた。本個体の体温が低下したためであろう。ダニは3対の脚をもつ（数十個体検鏡）幼体。

ダニ類と衝突死したクロツグミは，液侵ホルマリン固定標本として保管。最後に，鳥の同定をいっしょにして下さった伊谷　行氏に感謝する。

引用文献

金田喜蔵．1982：野鳥．白浜町誌自然編，白浜の自然 第2編・陸の生物．第2章，99-112，白浜町．

小林桂助．1956：原色日本鳥類図鑑．204 pp.，保育社，大阪．

————．1967：標準原色図鑑，鳥．173 pp.，保育社，大阪．

————．1973：野山の鳥．151 pp.，保育社，大阪．

岡田　要・内田清之助・内田　亨．1973：新日本動物図鑑（下）．763 pp.，北隆館，東京．

和田　岳．1995：窓ガラスにぶつかった鳥．Nature Study, **41**(11), 9-10.

* 京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所（〒649-22 和歌山県西牟婁郡白浜町臨海）